

第1回御坊市介護保険事業計画策定委員会 議事要旨

開催日時 令和8年7月29日（水）午後1時30分から午後2時53分

場 所 御坊市役所 4階 会議室401

出席者 委員20名（代理出席2名含む）/欠席委員2名 事務局12名

資 料 資料1 次第

資料2 委員名簿

資料3 御坊市介護保険事業計画及び老人福祉計画策定委員会条例

資料4 第1回御坊市介護保険事業計画策定委員会資料

1. 介護保険事業計画とは

2. 第10期計画に向けて

3. 第9期計画の取組総括

資料5 令和8年度御坊市地域密着型サービス等運営委員会資料

1 開会 福祉部長挨拶

第5次御坊市総合計画にもあるように、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らせる環境の実現に向けて、持続可能な制度としていくにはどうしたらよいか、委員のみなさまのご意見をいただき計画を策定していきたい。

2 委員委嘱状の交付 配布のみ

あがらの総活躍希望大使の紹介

アドバイザー紹介

・特定非営利活動法人地域生活サポートセンター 小森 由美子 氏

・日本福祉大学福祉経営学部教授 中島 民恵子 氏

事務局紹介

福祉部健康長寿課・御坊市地域包括支援センター

3 委員長及び副委員長の選出

委員長に丸山委員、副委員長に田中委員を選任

委員長挨拶

2027年度から2029年度の計画を策定するわけだが、これまでの計画の流れの中で介護人材の確保の問題や介護保険料について注目されるが、全国的な介

護保険の現状について把握し、現状に対して的確な対応が取れるような政策を実現していくべく、委員のみなさまの忌憚のない意見を期待したい。よろしくお願いします。

4 議題1 介護保険事業計画について

(1) 介護保険事業計画とは

(2) 第10期計画に向けて

(3) 第9期計画の取組総括

以上について事務局から説明

(4) 質疑応答 発言なし

5 議題2 令和8年度御坊市地域密着型サービス等運営委員会

(1) 地域密着型サービスの整備状況について 事務局から説明

(2) 質疑応答 発言なし

6 意見交換

委員長 事務局より説明がありましたが、ご意見・ご質問等お願いします。

第9期計画では「健康づくり」を基本目標として掲げているが、御坊保健所長の平岡委員からご意見いただけるか。

平岡委員 地域密着型サービスの整備については、2施設を開設しようとしたが、1施設のみとなったという理解でよいか。

事務局 現状は御坊市内で小規模多機能型居宅介護事業所は2か所。第9期計画期間中に3か所目となる1事業所を整備しようと計画していたが、整備に至らなかった。第10期計画期間においては、現存の2事業所の運営支援に注力し、整備については保留という形で検討したい。

平岡委員 厚生労働省からは、いろいろなサービス形態が示されるが、地域の実情に応じて、協議の場で意見を出し合い、公募に応募がなく、既存施設の支援に回るという判断を含め、実現可能なものを選択していく必要はある。

委員長 アドバイザーからもご意見をいただきたい。

アドバイザー 計画の振り返りが具体的であり、現状がわかりやすく、課題が非常に見えやすい報告となっていた。小規模多機能型居宅介護は事業所「通い・訪問・泊まり」を同じスタッフが対応する非常に良いサービスだ

が、仕組みが分かりにくい面がある。住民への周知活動が必要である。御坊市は、次は第3期となる認知症施策推進基本計画についても全国に先駆けて進められている。引き続き、現実に沿った形で住民の暮らしやすさに貢献できるよう進めていただきたい。

副委員長 今回、策定委員会に初めて参加した。事務局の説明を聞き、印象としてはかなり総花的と感じる。御坊市のような小さなまちで、しかも財政的な余裕もなく、限られた職員で取り組んでいる。方向性としてメリハリをつけた方がよいのではないかな。介護を必要としない人を増やす社会を目指すのか、あるいは安心して介護サービスを使える社会を作るのか。個人的にはどちらかにシフトした方がよいと感じる。介護を必要としない人を増やす方向でということであれば、健康社会を目指す取組、例えば高齢者の社会参加、高齢期の雇用をもう少し長くしていく。また、女性は骨粗鬆症になりやすいというが、40、50代が運動習慣を付け、体を鍛えていけば、60、70代になっても元気でいられるのではないかな。ピラティスなど若い人が取り組みやすい運動を促進すれば、高齢になっても運動を続けることにより健康でいられるのではないかと素人なりに考える。

小澤委員 2040年前後には八掛け社会が危惧されていると聞く。求めるスキルを有する人材の不足が見込まれる中で、若い人材の育成が重要になってくると考えている。何か取組があれば教えていただきたい。

小林委員 和歌山県老人福祉施設協議会の代表として参加している。法人内の小規模多機能型居宅介護事業所についても、運営に苦戦している状況。人材確保も厳しい状況で、法人内では外国人職員が20%を占める。近隣の福祉系専門学校では日本人の入学者数がゼロと聞いている。外国人人材を採用し、育成しても外国人同士のコミュニティがあり、雇用条件等から御坊圏域を去っていく場合もある状況。市の介護人材確保に向けての取組には感謝しているが、さらなる取組が必要ではないかとかなり危機感を持っている。

委員長 第8期計画から参加しているが、このころからの介護人材の担い手不足や介護サービスの維持困難といったことがいよいよ現実のものとな

ってきている。政策をいかに着実に進めていくか、健康長寿課の職員をはじめ、今まさにこの時点から知恵を絞っていく必要がある。制度は国が決めることであるが、市からも実情に応じた形をモデルとして提案し、国の目が届かない部分を伝えていくべきであるし、役割である。本日の資料を基にこれから課題を追求し、課題に対する回答を実現できるように取り組んでいきたい。

7 閉会

事務局 第2回策定委員会は10月21日（水）午後1時30分から、場所は1階多目的ホールを予定しています。内容は介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析結果の報告後、ワークショップ形式による意見交換会を予定しています。